

テクノス通信

VOL. 33
Feb.2012



「総集編① 現場レポート～離床センサー活用工夫～」

テクノス通信、リスクマネージャーインタビュー、現場レポートにてご紹介した「離床センサー活用工夫」について総集編をご案内します。病院・施設様での様々な工夫ですので、皆さまの現場でもお試しいただけるものがあるのではないのでしょうか。ぜひご参考ください！

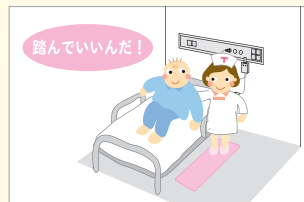
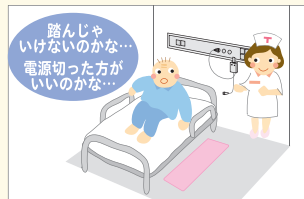
コールマット（踏む）

スタッフが「あえて」センサーを踏む！

介助時スタッフの行動より報知しないようスタッフがセンサーを避けたり、電源を切ったりしていた。

それを見た患者がその行動を真似したり、センサーに触れてはいけないと思いベッドから降りる際センサーを避け、転倒したことがあった。

そこで、センサー使用者への訪室の際は必ずステーションに残っているスタッフに声掛けをした上で、介助中もあえてセンサーを踏むようにしセンサーは踏んで良いものだとして認識してもらった。



ベッドコール（起上る）

テープで正しい設置位置がわかる！

起上り報知のセンサーは設置位置が重要。位置がずれることで、「寝返りで鳴る」や「起上ったのに鳴らない」などの誤報知に繋がることも少なくない。

そこで、ベッドのフレームに設置位置をテープで目印を付け、シーツ交換時などでも、誰でも正しい位置に設置できるようにする。「センサー設置患者」という目印にもなり、スタッフが統一した対応が行える。

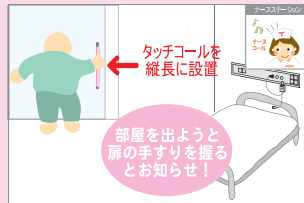
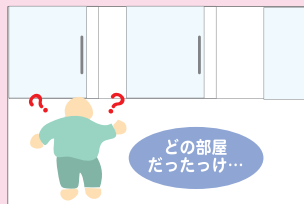


タッチコール（握る）

扉の手すりにつけて離室を報知！

認知症があり帰室困難な患者がいるが、居室内での動きは問題がないのでベッド周りにはセンサーを設置したくない。出入口に床敷きセンサーを設置したが、気づいて避けられてしまった。

タッチコールを病室ドアの手すりに設置し、ドアを開けようとするときに自然にセンサーを握り、報知ができるようにした。



座コール（立ち上がる）

大人数見守り時の事故防止に！

詰所前の談話室で見守り中、目を離れた際に椅子から立ち上がり転倒する事故が発生している。

談話室の椅子に座コールを設置。ケーブルや機器が目につくことを避けるため、センサーはコードレスタイプを選択。さらに、センサーの上には座布団などで、目につかず違和感がない工夫をした。

転倒の危険がある利用者の立ち上がりをキャッチできるようになり、転倒・転落防止に効果があった。



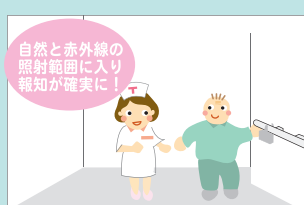
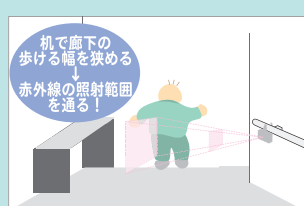
赤外線コール（照射範囲に入る）

机設置で自然に照射範囲内を通過！

ナースコール指導しても一人でトイレへ行ってしまふ患者がいる。居室内での動きは問題がないので、居室から出ようとするのを報知させたいが、赤外線の照射範囲外を通り廊下へ出てしまうことがある...

廊下に机を置くことで患者が通る範囲を限定し、必ず赤外線の照射範囲に入るようにした。

通常院内にある備品を使ったことで患者も違和感なく無意識に机を避け、照射範囲を通して離室するため、確実な報知ができるようになった。



その他...

センサー設置者のコールは目印 & 直訪で対応！

センサー設置患者名の横にシールを貼り、現場スタッフ全員でセンサーを使用している患者を把握する。センサーを使用している患者のナースコールが鳴ってもナースコールには応じず直接病室へ向かうことで、センサー設置に気付かれず運用ができる。



「センサーカード」で面会後の電源入れ忘れを防止！

面会後のセンサー電源の入れ忘れ防止策として「センサーコール OFF カード」を作成。センサーの電源を切る時にご家族にカードを渡し、面会終了時にスタッフをナースコールで呼んでもらいカードと引き換えにセンサーの電源を入れる対策をルール化。ご家族からも協力が得られると同時に転倒・転落対策の必要性を理解いただけた。

センサーコール OFF しています
お帰りの際は、患者さんのそばで呼び出しボタンを押しお待ち下さい

